

課題の概要

- 課題名 「富山発先端ライフサイエンス若手育成拠点」
○総括責任者名 「西頭 徳三」
○機関名 「国立大学法人 富山大学」
(実施予定期間： 平成22年度～平成26年度)

機関の現状

富山大学では、大学院の再編により、学際分野の教育研究の実施を容易にしている。この結果、医薬理工融合の「先端ライフサイエンス拠点」が設置され、世界トップレベルのSS、Sの研究が展開されている。また、和漢医薬学総合研究所は、共同利用・共同研究拠点として、ユニークな研究を実施している。水素同位体科学研究センターでは、日本唯一のトリチウム研究が行われており、核融合科学研究所との双方向型共同研究に参画する予定である。

若手教員の支援に関しては、学長裁量経費等を競争的に配分している。また、過去3年間で66名の博士研究員を採択している。

自然科学系の全部局で任期制を導入している。特任の教員や職員に年俸制を導入している。今後、特殊能力を有する年俸制の特任教員を増加する予定である。

人材養成システム改革・若手研究者育成の構想

本プログラムでは、歴史的経緯と長い時間をかけて耕されてきた「富山のくすり」の土壌をベースとして立ち上げた「先端ライフサイエンス拠点」をテニュアトラック推進特区として認定し、意欲ある若手教員を特任助教として7名採用する。スタートアップ資金、研究費、スペース、ポストクを措置し、自立的な研究環境を保障する。また、拠点のアクティビティの高い複数の教員の指導・支援により、従来の概念にとらわれない柔軟な発想力を持ち、国際競争力のある独創的研究を遂行できる現代の高峰譲吉を育成する。

事業終了後は、本プログラムの制度を全学に適用し、定着を図る。

ミッションステートメントの概要

学長直属のテニュアトラック推進特区として、「先端ライフサイエンス若手育成拠点」を設定し、国際公募により7名の任期付き特任助教を採用する。テニュアトラック教員選考・評価委員会で毎年評価する。

3年経過後には、研究業績、学協会活動などをもとに中間評価を行い、評価に基づいた指導を行う。

5年の実施期間終了時に、学術論文、国際会議での発表、研究成果の独創性、研究推進能力、今後の研究構想などを総合して厳格な評価を行う。テニュア審査で高い評価を受けた特任助教を本学の准教授として5名雇用する。翌年度に2名雇用する。テニュア審査の結果、雇用されなかった者については、特任助教の任期を1年間継続・延長するとともに、他研究機関や産業界への応募を支援する。

富山発先端ライフサイエンス若手育成拠点の実施体制

学長（総括責任者）

テニュアトラック推進特区

先端ライフサイエンス拠点

特任助教7名を国際公募
（本学の自主的取組1名）
外国人2名以上、女性1名以上

テニ
ユア
トラ
ック
実
施
委
員
会

実
施
支
援

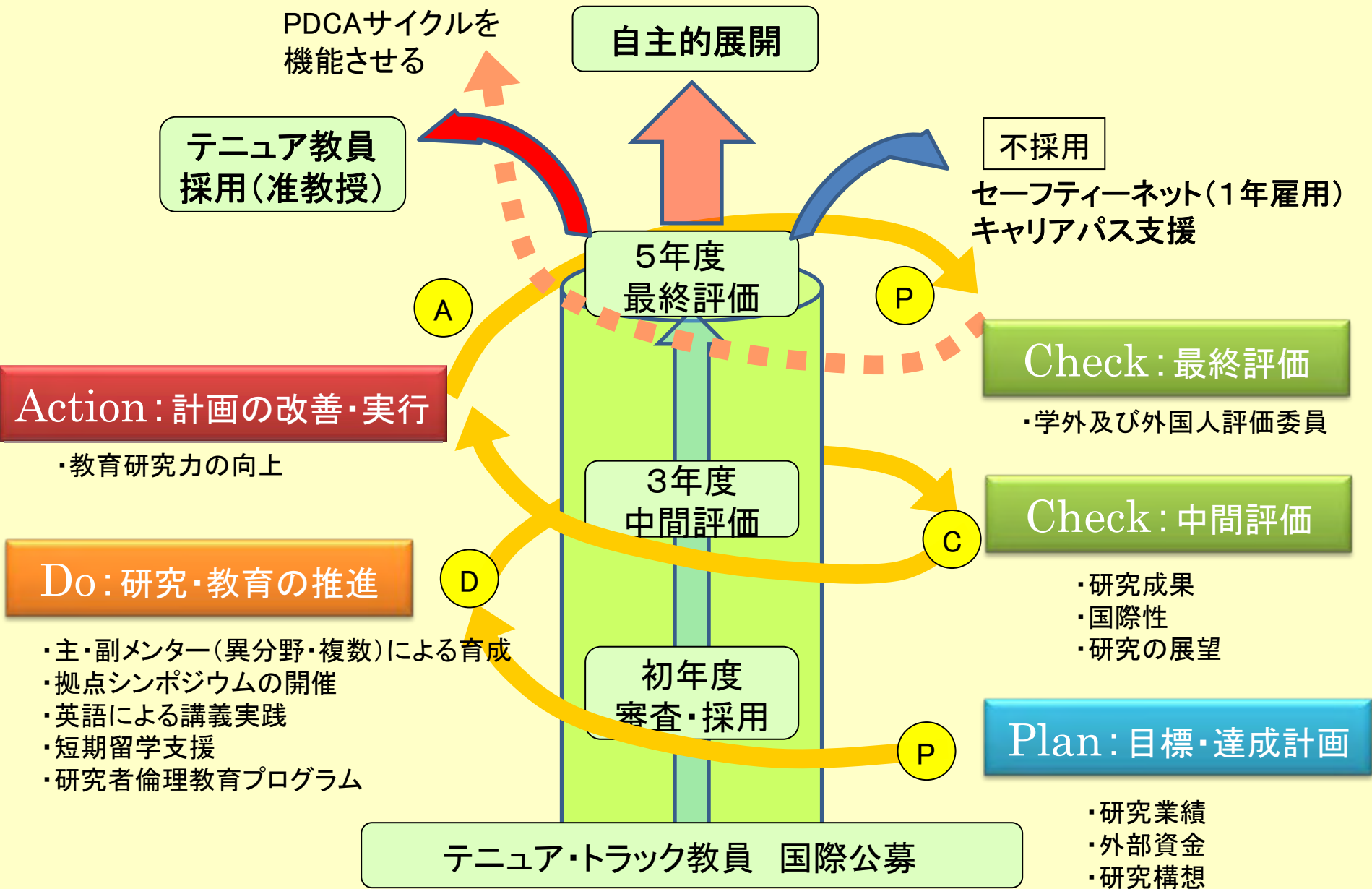
選
考
評
価

テニ
ユア
トラ
ック
選
考
・
評
価
委
員
会

支
援

理工学研究部（理学部・工学部）・医学薬学研究部（医学部・薬学部）・和漢医薬学総合研究所
研究戦略室・国際戦略本部・地域連携推進機構・男女共同参画推進室
生命科学先端研究センター・自然科学研究センター・水素同位体科学研究センター

富山発先端ライフサイエンス若手育成拠点の実施内容



ミッションステートメント

- 課題名 「富山発先端ライフサイエンス若手育成拠点」
○総括責任者名 「西頭 徳三」
○機関名 「国立大学法人 富山大学」
(実施予定期間：平成22年度～平成26年度)

(1) 人材養成システム改革構想の概要

今回の人材養成システム改革では、学長直属のテニユアトラック推進特区を設け、学際的な分野に果敢に挑戦する意欲のある若手教員を採用し、小講座単位に縛られることなく、医薬理工融合の「先端ライフサイエンス拠点」の教員の支援・指導の下、自立的な教育研究能力の向上、研究推進能力の向上、学際領域の研究の推進をはかる。任期終了後のテニユア審査で高い評価を得た者は、本学教員として採用する。

このことによって、従前のシステムでは育成が困難であった、自由な発想で学際領域に果敢に挑戦する時代を担う若き研究リーダを育成する。また、このシステムを本学の他の重点研究拠点に拡充する事によって、テニユアトラック制度の定着を目指す。

(2) 3年目終了時における具体的な目標

- ・初年度に、学長直属の「先端ライフサイエンス拠点」をテニユアトラック推進特区として設ける。
- ・初年度に5名、2年度目に2名を国際公募により募集し、厳格な審査の上採用する。
- ・雇用した若手教員（特任助教あるいは准教授）の研究環境を整備する。
- ・雇用した若手教員について、毎年度の評価とともに、3年経過後には中間評価を行い、評価に基づいた指導を行う。

(3) 実施期間終了時における具体的な目標

- ・世界トップレベルの研究能力を有する人材を育成する。
- ・初年度に採用された5名の特任助教のテニユア審査を行う。

(4) 実施期間終了後の取組

- ・テニユア審査で高い評価を受けた特任助教を本学の准教授として雇用する。
- ・テニユア審査の結果雇用されなかった場合、希望する者に、任期を1年間継続・延長するとともに、他研究機関および産業界への応募を支援する。
- ・本学の人材養成システムを、他の重点研究拠点に拡充し、意欲のある若手の任期付き特任准教授・助教の確保に努める。

(5) 期待される波及効果

- ・採用した若手教員の自由な発想の研究が保証されること、活発な先端研究に取り組んでいる重点研究拠点の教員の指導を受けること、また、国内外の研究者との交流の機会が多く与えられることから、国際的に競争力のある若手研究リーダが育成され、学際的な新領域の分野の開拓が期待される。
- ・独立した若手教員を採用することにより、従来型の「たこつぼ」的研究者養成とはことなり、縦割りの人事に縛られない機動的な人事の活性化に繋がる。
- ・国際公募により海外の若手研究者を採用することができ、教育研究の国際化を図ることができる。拠点シンポジウムを設け、定期的に国内外の研究者の講演や討論会を実施することにより、若手研究者がアカデミックな環境に身を置くことができる。
- ・ライフサイエンスに関する先端研究を推進するとともに、製薬メーカーなどとの連携を通して、「くすりの富山」の発展に貢献する。